新学校給食共同調理場の整備を進めています

令和5年2学期からの供用開始に向けて、 新学校給食共同調理場の整備を進めており、 本年5月から建設工事を開始しました。建設 工事は、令和5年6月末までを予定していま

また、配送対象校となる小学校8校(一小 ~八小)と中学校9校(全校)では、共同調理 場からの給食提供に向けて、配送車のプラッ トホームや配膳室の整備等のため、順次改修 工事を実施しています。

間学校給食課・内線6812



隣接する新・現学校給食共同調理場を識別できる施設名称とします

新学校給食共同調理場は、現学校給食共同調理 場と東西に隣接することとなるため、施設名称で 両場を識別できるよう、右記の通りとします。新 しい施設名称は、令和5年8月以降の使用を予定 しています。

立川市学校給食西共同調理場 現調理場

新調理場 立川市学校給食東共同調理場

今後、市立小・中学校の児童・生徒を 対象に、隣接する2つの調理場を総称す る「愛称」を募集する予定です。愛称募 集の詳細は、今後お知らせします。

歴史と

48

穀物袋から考える「SDGS



重な布袋であるために、

まったく違う製

品の袋を裏表にして印字した跡など、

が書かれています(写真1)。また、 れています。さらに、お店の屋号

の風景映像を見て、、持続可能な、生活様式

とはどのようなものなのか、考えてみませ

らの生活道具などの資料や、懐かしい立川

立川にゆかりのある昔なが

一全

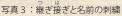




写真2:穀物袋としての再利用

生活したいものです

歴史民俗資料館では、

7月10日(日)ま

企画展「新収蔵品展」

を開催していま



写真1:岩崎商店屋号の「会」

で立川駅北口の駅前北西で商売をしてい 式会社」(現在のニップン)のもの、 と白米が極上の品質であることが印刷さ と印字され、 した。この袋には「合名会社岩崎商店」 庫)の袋と考えられるものも含まれていま (現在の日東富士製粉)や「日本製粉株 類が入る布袋です。「日東製粉株式会社」 ×70mで、おおむね容量が20~25kgの穀 寄贈された資料は平均して大きさ30 「岩﨑商店」(米問屋、 大正5(1916)年ごろから戦前ま 「品質優良」「無砂特撰 現在の岩﨑倉 、なかに

昭和40年代ごろまでの民具など、昨年度当

立川飛行場にまつわる資料や大正時代から

本稿でご紹介した穀物袋の資料に加え、

昨年度に資料保存事業の一環で修復・デジ 館へ寄贈された資料の一部を展示し、

タル化した貴重なフィルムも一部公開・上

農業の主要作物は米や麦でした。とはい はとても貴重で、江戸時代には粟や稗を かつての立川市域では、主産業である 庶民にとっては米や麦を使った食事

ては貴重な布袋であったため、

穀物袋と

これらの穀物袋ですが、

やはり当時とし

なかったようです やうどんなどは特別な時にしか食べられ 主食として、麦を使った料理、すいとん

何度も大切に使い続けていたことがうかが あらゆる分野で「SDGS」(エスディージ で持ち主の方の深い愛着を感じます。近年 えます。今改めて見ると、とてもオシャレ 前を刺繍し(写真3)、洗って別な用途でも て、丁寧に継ぎ接ぎ・ステッチを施し、 が、ほころびや穴あきに違う布をあてがっ も昔のことで分からないということでした す。具体的には何を包んで使用されていた "サステナブル"(持続可能)な暮らしのヒン · ズ、Sustainable Development Goalsの略 持続可能な開発目標」)が提唱されていま 環境を考えて大切にものを使い続ける 昔の資料からも学びとり、 寄贈者の方からの聞き取り調査で

ケットに行くと見かける小麦粉や米の袋

は欠かせないものですが、

スーパーマー

さて、現在の食生活において、米や麦

を想像されると思います。業務用の大容 といえば、ビニール袋(プラスチック袋)

量のものでも、

ほとんどが紙製、

もしく

はプラスチック製の袋が使用されていま

料である穀物袋についてご紹介します

昨年度当館に寄贈された資

| 固歴史民俗資料館 (生涯学習推進センター 文化財係) (525) 0860

であろう痕跡(写真2)も見て取れます そらく穀物袋としても何度も使用された